

中根小の自然

第 38 号 2009 年 3 月 17 日

冬から春へ ～4 年生理科・校庭、春の生き物探しから～ その 3. 春の息吹き

今回は先日の 4 年生理科「校庭の春の生き物探し」より、植えこみの中ですでにたくさんの花を咲かせ始めている雑草に注目してみましょう。

①ヒメオドリコソウとホトケノザ(シソ科)



左がヒメオドリコソウで、右がホトケノザ。ともにシソ科で、茎が四角いのが特徴でしたね。花も葉のつき方もよく似ていて迷うかもしれません。こうして並べてみると、わかります。ヒメオドリコソウはヨーロッパからやって来た植物。なお、春の七草の”ホトケノザ”はキク科のコオニタビラコで、これとは違います。

②タネツケバナとナズナ、キャベツ(アブラナ科)



4 枚の花びらを十文字につけるのがアブラナ科の特ちょう。左と中上はタネツケバナ。昔はこの花が咲く頃にイネの種を水につけて、田の準備をしたそうです。右上はナズナ。平たい三角形を逆さにしたような果実の形を三味線のバチに例えて、”ぺんぺん草”などとも呼ばれます。中下はキャベツ。花が咲くと、キク科のレタスとの違いがはっきり分かりますね。

③オオイヌノフグリ(ゴマノハグサ科)



左は青い宝石のようなかわいい花をつけるオオイヌノフグリ。果実の形を犬のいんのように見立てて名づけられました。今では当たり前のようにどこでも見られますが、ヨーロッパから来ました。右はスズメノカタビラ。イネ科の花はあまり目立ちませんね。 [理科支援員 宮内]

④スズメノカタビラ(イネ科)

